

白岡市環境基本計画リーディングプロジェクト進行管理シート

リーディングプロジェクト2

多様な生物が生息・生育する環境づくりにチャレンジする生物多様性を保全・創出しよう！プロジェクト

令和5年度における関連する社会の出来事

低炭素社会から脱炭素社会の実現にチャレンジする脱炭素社会を実現しよう！プロジェクトを参照

■生物多様性を保全・創出するための取組

◆多様な生き物の息づくまちをつくります！

環境基本計画で定めた「市の具体的な取組」	令和5年度に実施したこと	評価
●市内に生息する生き物などの調査を実施し、市民への情報提供を行います。	(環境課) 広報紙や市公式ホームページで、いきもの調査についての周知を行った。また、環境課窓口に、ひこべえの森に生息する動植物の写真パネルと「いきもの調査シート」を設置し、いきもの調査のPRを強化した。	環境課窓口に展示している写真パネルと一緒に設置した「いきもの調査シート」を手にする市民が見受けられるようになった。 今後も新たな手法を取り入れることも考えながら、引き続きPRをしていく。
	(生涯学習課) 自然観察会など環境関連の講座を実施した。	生涯学習課の事業は一度きりではなく、季節ごとに経過を楽しむ学習できる工夫が凝らされている。 自然とのふれあいを通じて、親子の絆づくりにも寄与している。 今後も学習機会の拡大に期待がされる。
●市民や関係機関と連携し、貴重な生物や在来種の保護、外来種の移入防止などの必要な保全措置を図ります。	(環境課) 家屋・農業被害防止のため、市民からの依頼により捕獲器(箱わな)を設置し、アライグマを56頭捕獲した。	有害鳥獣被害対策として、引き続き取り組む必要がある。
●公園や学校などの公共用地については、生態系に配慮して自然環境の創造に努めます。	(街づくり課) 公園内の樹木について、樹木の状態を注視し適切な時期に剪定等を実施するなど、緑の保全に努めた。	公園は市民の健康づくり、憩い、交流の場として、また災害時の避難場所や防災空間としても重要な機能を担っている。 市民が安心・安全に公園を利用できるよう、樹木の成長を考慮しつつ、危険箇所を見極めて剪定をするなど引き続き適切な管理に努め、取組を進めていく。
	(教育総務課) 周辺との環境調和や景観美化を図るため、樹木剪定等を実施し、自然環境の創造に努めた。	周辺との環境調和や景観美化に配慮した樹木剪定等がなされている。 各学校において、引き続き適切な管理に努め、取組を進めていく。

◆市民も生き物も安心して共生できる緑や水辺などの保全・創造を推進します！

環境基本計画で定めた「市の具体的な取組」	令和5年度に実施したこと	評価
●市民と協力し、「ふるさとの森」をはじめ、里山林、屋敷林、社寺林などの残された樹木・樹林の保全・管理に努めます。	(環境課・生涯学習課) 彦兵衛下小笠原遺跡ふるさとの森(ひこべえの森)では、12月に「ひこべえの森冬の集い」が開催され、森の大掃除が実施された(参加者:94名)。	市内に存する樹林地の多くは屋敷林や社寺林であるが、中でも彦兵衛下小笠原遺跡ふるさとの森は、市内にわずかに残された雑木林のひとつであり、埼玉県レッドデータブックにより指定された絶滅危惧種である「オオタカ」の飛来や、同じく絶滅危惧種である「シュンラン」などの希少な動植物が確認されている。 こうした背景も踏まえ、今後も引き続き生物多様性の保全・創出に向けた取組を推進していく必要がある。
●市街化区域内の農地を生産緑地制度等により保全し、都市の緑地空間の確保を図ります。	(街づくり課) 開発の法令調査において、事業者に対し生産緑地地区内であることを指導し、都市の緑地空間の確保に努めた。	生産緑地制度は市街化区域内の農地を保全する上で、非常に重要な施策である。 今後も市街化区域内の農地を同制度等により保全し、都市の緑地空間の確保を図っていく。
●農業・農村が持つ多面的機能が維持・発揮されるよう、国や県の交付金制度を活用した取組を進めます。	(農政課) 国の交付金制度を活用し、地域の共同活動を実施している組織に対し、書類作成指導等の支援を行った。	水田をはじめ、農地は雨水を一時的に貯留し洪水を防いだり、多様な生き物を育むなどの多面的機能を有している。これを維持・発揮させるためにも、引き続き支援が必要である。
●市内唯一のビオトープである柴山沼の維持管理に努め、親水空間の保全に努めます。	(街づくり課) 柴山沼の樹木について、樹木の状態を注視し適切な時期に剪定等を実施するなど、親水空間の保全に努めた。	市内唯一のビオトープである柴山沼は、様々な動植物の生息基盤となっている。 引き続き、遊歩道の整備などにより、親水空間の保全・充実を推進していく。
●多自然型工法の採用による自然環境への配慮を河川管理者に働きかけ、河川等を整備・充実し、水辺環境の保全・創造に努めます。	(環境課) 不法投棄や水質汚染が発生した際は、河川管理者の杉戸県土事務所と合同で対応し、水質環境の回復に努めた。	引き続き河川管理者と連携を取り、河川の環境の保全・創造に努める。

■「市民・事業者」の取組

環境基本計画で定めた「市民・事業者」の取組の例	令和5年度に実施したこと	評価
<p>【市民の取組の例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●減少傾向にある在来種の保全に努め、また外来種についての情報や知識を共有し、むやみに動物を放さないようにしましょう。 ●敷地内に実のなる木を植えるなどして、鳥や昆虫を守りましょう。 ●市内に生息する生き物に関心を持ち、保全する意識を持ちましょう。 <p>【事業者の取組の例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●河川、森林、農地、湿地などが、様々な動植物の生息基盤となることを認識し、自然環境の保全に努めましょう。 ●建設事業等に当たっては、生き物や生態系に配慮した工法を用いましょう。 ●外来生物などの有害鳥獣についての情報収集に努め、駆除活動に協力しましょう。 	<p>彦兵衛下小笠原遺跡ふるさとの森において、白岡市、市教育委員会、白岡緑と土の会及び町ぐるみ白岡の共催による、ひこべの森冬の集いが開催され、94名が参加した。</p> <p>市民団体「元荒川・星川をきれいにする会」による、水辺環境の美化活動が行われた。</p>	<p>「白岡緑と土の会」「元荒川・星川をきれいにする会」などの市民団体のほかにも、地元の自治会や行政区による活動が市内の森や河川の環境整備に大きく寄与している。</p> <p>自然環境の保全を自然環境に親しむ機会と捉え、これら市民団体の活動を広く広報することで、協力者等の増加が図られると考える。</p> <p>引き続き、市民団体等の活動への支援や協力が必要である。</p>

プロジェクトを推進するための数値目標

担当課	項目	基準	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績	令和6年度実績	令和7年度実績	中間目標	目標
		令和元年度							令和7年度	令和12年度
環境課	市街化区域内の保存樹林の指定面積	20,388㎡	15,299㎡	15,414㎡	15,414㎡	15,414㎡			現状維持	現状維持
環境課	市街化区域内の保存樹木の指定本数	10本	10本	10本	10本	10本			現状維持	現状維持
街づくり課	公園緑地面積	39.43ha	39.43ha	39.02ha	39.02ha	39.02ha			39.43ha	40.54ha
環境課	川の国応援団登録数	6団体	6団体	7団体	8団体	9団体			9団体	12団体

総括

◇多様な生物が生息・生育する環境づくりにチャレンジする生物多様性を保全・創出しよう！プロジェクト
生物多様性の保全・創出に向けた取組として、市は緑の保全及び自然に配慮した街づくりの観点から取り組んでいる。
市では緑豊かな住みよい自然環境づくりを目指し、市街化区域内に残る健全で美観にすぐれ、地域市民に親しまれている樹木及び樹林を保存樹木・保存樹林に指定し、その維持管理に対して奨励金を交付しており、令和6年3月31日現在において10本の保存樹木、8箇所の保存樹林が指定されている。しかしながら、近年では維持管理の負担など様々な事情で伐採され、保存樹木・樹林は減少傾向にある。
引き続き奨励金の交付等を行うことにより、樹木・樹林を守るとともに、市内の緑の保全に努めていく。

白岡市環境基本計画リーディングプロジェクト進行管理シート

リーディングプロジェクト3

多くの市民が環境づくりにチャレンジする環境を学び行動する市民を増やそう！プロジェクト

令和5年度における関連する社会の出来事

低炭素社会から脱炭素社会の実現にチャレンジする脱炭素社会を実現しよう！プロジェクトを参照

■環境を学び行動する市民を増やすための取組

◆多様な主体、世代が学べる機会を充実させます！

環境基本計画で定めた「市の具体的な取組」

令和5年度に実施したこと

評価

●ボランティア団体などと連携しながら、自然環境に関する学習会の開催など、学校教育や社会教育での学習機会の拡大を図ります。

(教育指導課)
市内各学校での「みどりの学校ファーム」において、苗を植えたり、収穫したり等、自然に触れることで環境保全への理解を深めた。

各学校において、引き続き取り組む。
また、小学生等が環境に親しむ機会作りを行い、市内に存在する自然を認知できるよう情報提供を行っていく。

(生涯学習課)
自然観察会など環境関連の講座を実施した。

生涯学習課の事業は一度きりではなく、季節ごとに経過を楽しみ学習できる工夫が凝らされている。自然とのふれあいを通じて、親子の絆づくりにも寄与している。
今後も学習機会の拡大に努める必要がある。

●保育所や児童館などにおいて、児童や親子向けの環境学習、体験学習などを実施します。

(子育て支援課)
東児童館事業では幼児・小学生、子育て支援事業では乳幼児を対象にリサイクル素材を使った工作・遊びを行った。

幼児・児童、それぞれのライフステージに応じた環境学習に取り組んでいる。この時期における環境学習は、生涯にわたる環境保全意識を身に付ける基礎を培う役割を担っている。

●環境関連事業の実施や、学校の授業における環境関連の副読本の活用などにより、学年に応じた環境教育や意識啓発を推進します。

(教育指導課)
市内各学校に対し、各種団体から送付される環境に係る通知等について、積極的に情報提供を行った。また、各教科及び総合的な学習の時間において、環境問題についてふれ、児童生徒への理解を深めた。

学校においては、発達段階に合わせ、学年に応じた環境教育が行われている。持続可能な社会づくりに貢献する人材育成のため、環境教育の重要性は高い。
今後も充実に向けた取組が必要である。

●自然観察会や体験学習、各種環境関連の生涯学習講座等の実施、拡充を通じて、幅広い世代の市民に対する環境学習を促進するとともに、自然学習指導者や公園ボランティアなどの育成を図ります。

(環境課)
4年ぶりに「夏の環境学習会」を開催することができ、県立川の博物館を見学し、荒川の歴史や自然に触れることができた(28名の参加)
12月には「親子エコスクール」を開催し、牛乳パックからハガキを作成し、親子で楽しみながらリサイクルについて理解を深めた(10名の参加)。

環境問題への関心度を高めるための企画であり、幅広い分野の「環境」に関連する施設やテーマを検討して事業を開催している。
令和5年度は4年ぶりに夏の環境学習会を開催することができ、28名の参加、第2回の冬の環境学習会は、10名の参加であった。
引き続き子どもから大人までが環境について学ぶことができる講習会等を企画・運営していく。

●地球環境に負荷の少ない生活への転換を促進するため、「広報しらおか」やパンフレット等により情報を提供するとともに、学校教育や社会教育等の機会を捉えて、地球温暖化対策に関する啓発を進めます。

(環境課)
地球温暖化対策に資する取組を推進するため、各種イベントや省エネ家電への買換えを呼び掛けた。

小学生に楽しみながら温暖化について学んでもらう「コミックサイエンスショー」を実施し、地球温暖化について考えてもらうきっかけ作りを提供できた。

◆市民、事業者に対する白岡市の環境行政への理解を深める機会をつくります！

環境基本計画で定めた「市の具体的な取組」

令和5年度に実施したこと

評価

●「広報しらおか」やホームページ、教育・学習の場、イベント時など様々な場所と場面で、白岡市環境基本条例、白岡市環境基本計画を周知する機会を作ります。

「環境学習会」などの環境課が主催するイベントで環境基本計画の概要版を出席者に配布し、条例・計画の周知を図った。

環境課が行う各種イベントにおいて参加者に計画の概要版を配布し、条例と計画の周知を行った。
令和6年度も引き続き実施していく。

■「市民・事業者」の取組

環境基本計画で定めた「市民・事業者」の取組の例

令和5年度に実施したこと

評価

【市民の取組の例】
●グリーンツーリズムなどのエコツアーに参加し、環境について楽しみながら学べる機会を多く持ちましょう。
●自然観察会や環境学習の機会に関心を持ち、参加しましょう。
●家庭において、環境について話し合う機会を設け、一緒に考えましょう。

自然観察関連では「大人の自然観察会(参加:15名)」、「秋のあぜ道観察会(参加:3組8名)」への市民の参加があった。
また、生涯学習課ではペアーズアカデミーとして「SDGs(全4回)」を開催し、環境について学ぶ機会を設けた(参加者:延べ61名)。

生涯学習課における事業は、市民との連携により市民が参加する事業展開がされている。今後も市民が関心を持つ事業の展開が望まれる。
一方で、市民との連携は見受けられるが、企業との連携はできていないことが今後の課題となる。

【事業者の取組の例】
●市や地域における環境学習の機会などに参加するとともに、企業として協力しましょう。
●事業所の環境への取組について、地域へ周知を図るため、事業所の見学会などを検討しましょう。
●従業員に対して、環境保全に関する勉強会などを開催し、意識向上に努めましょう。

プロジェクトを推進するための数値目標

担当課	項目	基準	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績	令和6年度実績	令和7年度実績	中間目標	目標
		令和元年度							令和7年度	令和12年度
環境課	環境学習会・講座累計参加者数	59人	0人 コロナ禍により未実施	0人 コロナ禍により未実施	12人	38人			350人	700人
教育指導課	市内小・中学校におけるSDGsをテーマにした環境学習の実施	32回	32回	73回	179回	131回			年間48回以上	年間80回以上
環境課	市民の白岡市環境基本条例の認知度(名前も内容も知っている)	2. 3% (令和2年度調査時の認知度)							10.0%	15.0%
環境課	市民の白岡市環境基本計画の認知度(名前も内容も知っている)	3. 1% (令和2年度調査時の認知度)							10.0%	15.0%

総括

◇多くの市民が環境づくりにチャレンジする環境を学び行動する市民を増やそう！プロジェクト
新型コロナウイルス感染症が2類相当から5類相当に変更されたことに伴い、各課において以前のような規模で環境保全行動を意識した事業が実施されるようになった。
学校教育においては、普段の授業の中に環境に関するテーマを取り入れ、多くの環境学習が実施された。
また、生涯学習課では、「大人の自然観察会」「秋のあぜ道観察会」など、季節に応じた環境教育、環境学習の充実に取り組んでいる。
引き続き、子どもから大人まで幅広い世代に対して環境学習が行える機会を設けるよう努めていく。